

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】

都道府県名	神奈川県
-------	------

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	横浜市立東小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	1	2	2	2	2	2	13	
児童数	48	36	43	55	54	61	5	302	19

研究の概要

1. 研究主題

個に応じて生きてはたらく言語能力を高める学習指導の工夫 ～主として国語科学習の少人数指導を中心に～
--

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

・全学年・国語 前年度からの当該教科に関する研究を生かし、児童の学力向上を図るための研究に取り組むため。
---

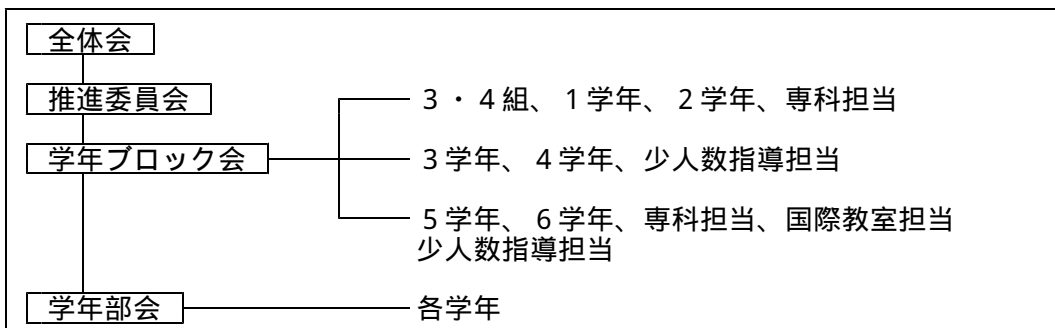
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 個に応じて生きてはたらく言語能力を高める学習指導の工夫 ～主として国語科学習の少人数指導を中心に～</p> <p>研究の見通し 国語科における「少人数指導」等の柔軟な指導体制の導入など、学びの場を意図的・計画的に設定することは、児童の興味・関心、学習意欲がさらに高まり、児童一人ひとりの主体的・創造的な学習につながっていくと考える。それが基礎・基本の定着となり、確かな学力となって、生きてはたらく言語能力を高めることになる。また、興味・関心別などの学習の複線化の授業を試みることで、個に応じた確かな学力を培うことになるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりに応じた確かな学力の向上を図るための指導体制や指導法の研究</li> <li>国語科における少人数指導(習熟度別、課題別、興味関心別など)やT・T指導の工夫、教材の工夫・開発</li> <li>読書を楽しみ、「生きてはたらく言語能力」を高めるための「読書タイム」の工夫</li> <li>国語科の基礎・基本を徹底するための「スキルタイム」の工夫</li> <li>児童の学力を伸ばす評価のあり方の研究</li> </ul>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 個に応じて生きてはたらく言語能力を高める学習指導の工夫 ～主として国語科学習の少人数指導を中心に～</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>言語能力を高めるためのT・Tと少人数指導、習熟度別、課題別等の指導法のあり方の研究</li> <li>単元開発、教材開発と指導計画、評価計画の作成</li> </ul>
--------	---

- ・高学年における交換授業のあり方の研究
- ・指導内容の定着に関するアンケート調査の実施、実施報告書の作成
- ・2年間のまとめと研究発表会

### (3) 研究推進体制



## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1. 研究成果

T・Tや少人数指導など個に応じた指導を工夫したことで、課題に対し意欲的に取り組む児童が増えてきた。それは、学習内容がよく分かり、国語科の学習が好きになってきている児童が増えてきていることによるものと考えられる。また、児童は、質問したり意見を言ったりする機会が増え、安心して自信をもって学習する姿が見られる。

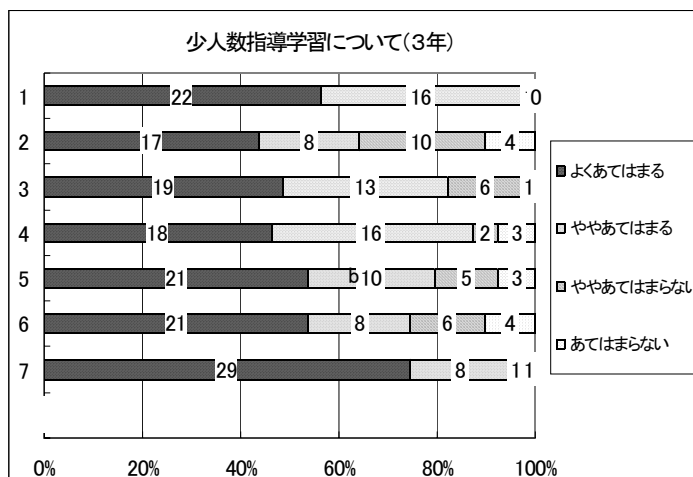
一人ひとりに応じたきめ細かな学習の場を設定することは、児童が課題をはっきりとつかみ、意欲的に自力解決することにつながる。また、教師の個々への支援も行き届き、指導内容の徹底ができる。

少人数指導の効果的な単元や教材などの見直しをもって、計画的に取り組めるようになった。

#### 少人数指導学習のアンケートから (平成15年9月実施)

##### (質問項目)

- 1 学習内容がよく分かる。
- 2 進んで手を挙げて答えている。
- 3 先生や友だちの話をよく聞いている。
- 4 自分の力で課題を解決しようとしている。
- 5 質問しやすい。
- 6 国語科の学習が好きになっている。
- 7 選んだコースは自分に合っている。



#### 読書タイム

自分から進んで読書をする児童や本を読む楽しさを感じている児童が増えてきた。低学年では保護者による読み聞かせによって、児童の本への興味が高まった。読んだ本の題名を記録し、読書量が分かるように読書カードを活用した。

#### スキルタイム

朝の時間に設定したため、時間を確保する上で困難な面もあったが、漢字や言語事項のスキルを継続的に取り組むことは、効果的であった。日記や要約文の取組では、書くことの苦手意識が薄れ、長い文章が書けるようになってきた。

### 自己評価

学習振り返りカードの活用は、児童自身が課題を明確にして学習に取り組むことや、児童の意欲や理解度を確認し次の指導に生かすことなどに有効であった。

## 2. 今後の課題

学力向上と個に応じた柔軟な指導を目指すために、さらに少人数指導、T・Tによる学習や習熟度別学習の効果的な単元（教材）の開発、指導形態、指導法等についての研究を深める。

T・Tやコース別の学習を実施する上で、教師間の共通理解を図るための時間を確保し、教材開発や教材研究を深めることができるようにする。また、柔軟な指導に対応できるよう教師の指導力を高める研修を行う。

個の差異を把握し、個の課題に対応した支援を行うための個別カルテ、評価カードを作成し、活用する。

自ら学ぶ力と友だち同士の学び合いの力を高めるために、学習活動を工夫し、児童の自己評価や相互評価の仕方について研究を深める。また、自己評価能力やコース選択能力も育成していく。

国語の基礎・基本を確実に身に付けるために、効果的なスキル学習の内容、学習システムを開発する。

生きてはたらく言語能力を高めるために、児童が自分の伸びる力を自ら感じ取り、主体的に学ぼうとする自信と意欲につながる活動の工夫をする。（例：読書、音読、暗唱などの表現活動）

国語の学力及び興味関心について調査し、本年度4月の横浜市標準学力診断検査の結果や国語科アンケート結果などと比べて、分析、検討を行う。

豊かな言語能力を高めるために、地域の教育力を生かした学習を考えていく。

### 学力等把握のための学校としての取組

横浜市標準学力診断検査（4月）  
（1年～4年） 国語、算数  
（5年・6年） 国語、算数、社会、理科

国語学習アンケート（4月）  
（全学年）  
・興味・関心  
・得意なもの、苦手なもの  
書くこと 読むこと 言葉 話す・聞く  
児童の国語科における実態をとらえ、指導の重点化を図るため

「学びの基礎となる力」についてのアンケート（10月）  
（4年～6年）

- ・社会や人との豊かな経験
- ・学習に向かう力
- ・自分で学習を進める力
- ・学習を深めて生かす力

「教科の学力」や「生きる力」の土台となる基礎的な力について、児童の実態と課題を洗い出し、各担任が指導の振り返りをしたり、今後の方向性を探ったりするため

日常の授業の中で学力を把握

- ・少人数指導の学習後、指導効果を把握するためのアンケートを実施
- ・指導と評価の一体化を図る。

・振り返り学習カード（自己評価）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

横浜地区学力向上推進連絡協議会で中間報告

保護者や地域の方々への説明

- ・学校だより、学年だよりでのお知らせ
- ・授業参観、懇談会

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
                                  13～18学級                       19～24学級  
                                  25学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T.Tによる指導  
                                  一部教科担任制                       その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       算数                       理科  
                                  生活                       音楽                       図画工作                       家庭  
                                  体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有                       無